

令和8年度 第1回三条市幼児教育推進会議録（概要）	
日時	令和8年6月10日（水）午後2時～午後3時30分
会場	市役所栄庁舎2階 201会議室
出席者	委員：中野委員、村田委員、土田委員、小黒委員、宮嶋委員、 今井委員、梶山委員、諏訪委員、吉田委員、安達委員 事務局：平岡教育部長、小林子育て支援課長、相田学校教育課長、 川俣課長補佐、知野幼児・児童係長、小林主任、 小海幼保小連携推進員 傍聴者：なし 報道機関：なし
会議内容	
	<p>【次第】</p> <p>1 開 会 午後2時開会</p> <p>2 挨拶 平岡教育部長挨拶</p> <p>3 各委員及び事務局自己紹介 名簿に従い出席委員及び事務局が挨拶</p> <p>4 会長及び副会長の選任 会長に中野委員、副会長に村田委員を選出</p> <p>5 議 事 令和7年度幼児教育推進プラン（第3次）実施状況報告書について（川俣補佐） 「幼児教育推進プラン（第3次）」の概要について参考1に基づき説明 （小林課長）令和7年度三条市幼児教育推進プラン（第3次）取組実施状況報告書について資料に基づき説明</p> <p>【質疑】</p> <p>中野会長 年2回行っている幼保小連携実務者会議についてはどのような実施形態で実施しているか。</p> <p>小林課長 先週、今年度の第1回会議を開催し、第1部では、県の架け橋センターのコーディネーターから、管理職も含め講演会を実施した。第2部では、幼児施設と小学校の実務者が学区ごとに集まり、それぞれの子どもたちの様子やこれからの交流活動について話し合いを行った。2月は</p>

	今年度の振り返りと来年度の実践に向けて、学園区ごとに検討を行う。
中野会長	一番大事なことは子どもたちが園でどのように過ごしていて、それを小学校で生かすとすればどのようなことなのか。カリキュラムを作成することが先ではなく、一番大事なことは人だとする方法で始めた事業だと思うので、2月の会議では事業の趣旨を伝えて欲しい。発達支援計画等、文章上では引継ぎがあるが、顔が見える関係が大事。直接語り合うこと、実際の姿を一緒に見合うこと等、言語化できない部分も伝えて欲しい。ニュアンスとして伝わることもある。
中野会長	三条市の小学校の校長会や教育研究会の中で生活科を専門とされている先生方の研究会はあるか。
宮嶋委員	研究会はある。
中野会長	保育参観や保育所体験の方が直接的な成果が得られるとするならば、生活の仕方や環境構成等を初めての一年生担任や久しぶりに一年生担任をする先生方に体験してもらおう機会について、校長会や学校教育課と連携をとりながら検討して行って欲しい。
中野会長	子育て支援センターについてだが、保育所の数は三条市内ではどのくらいあるか。
小林課長	保育所、認定こども園が公立、私立合わせて29施設、地域型保育事業実施施設が4施設あり、全33施設ある。
中野会長	人数としては結構来てられると思うが、層としてお客さんが固定化しているものか。肌感覚でいいので教えて欲しい。
小黒委員	わりと固定化しており、新規の方は少ない現状である。新年度に入り、楽しい行事等についてお知らせをしている。
中野会長	固定化したり、兄弟関係で来たりというものがあるが、都市型になりすぎて誰でも出入りできるのもいかなものかとも思う。子育て支援センターについても、今後どのような方向性を目指していくのか検討が必要である。三条に初めて来て、出産した方に向けて積極的にPRしていくとか、流動型のところで行けるようなところにするのであれば、上越市のようにショッピングセンター内の出張型という施設もある。どのような形を目指していくのか検討して欲しい。

土田委員	<p>架け橋プログラムについては、情報収集をしながらやっている。小学校に進学した際に子どもたちが困らないよう、小学校へ伝えるべきことは適切に伝えていかなければならないと考えている。</p>
村田副会長	<p>幼稚園は子どもたちが帰った後、午後2時過ぎから教材研究や職員の自主研修が行われていたが、認定こども園化が進むにつれ、午後の時間の振り返り等が難しくなってきた現状があった。以前、三条市からノンコンタクトタイムの取り入れについて話があり、肌感覚として各園長や職員の中でも必要だという意識が高まり、ありがたかった。様々な勤務体制が増えてきているので、今までとは違った方法を考えていかなければならないと感じている。</p> <p>学区を越えた授業参観のスケジュールを全学校分を提供いただきありがたかった。様々な小学校と幼児施設が繋がりやすくなり、学校を見たり、先生と情報交換ができてよかった。</p> <p>小学校への確実な引継ぎについて、数値が減った要因を分析して欲しい。内容によっては幼児教育現場で改善すべきことや考慮すべきことを見出せるかもしれない。また、就学相談に係るA票についての認識は小学校の先生方はいかがなものか気になる。</p>
小林課長	<p>要因についてはまだ分析できていないが、現在、小学校訪問をしているので、先生方にヒアリングを行うなどし、分析していきたい。</p>
中野委員	<p>このアンケートは管理職にとっているか。</p>
小林課長	<p>1年生の担任等の実務者から回答をいただいている。それも含めて小学校訪問のときによく話をしていきたいと思う。</p>
中野会長	<p>回答した方と実際に知っている方と少しギャップがあるのかもしれない。</p>
今井委員	<p>特別な配慮が必要な子どもへの支援について、特性がありそうな子の保護者がなかなか受け入れられないということがあり、対応について日々考えている。皆さんがどのように考えているか知りたい。</p>
中野会長	<p>早期発見や早期支援に繋げていきたいということで、この幼児教育推進会議の大きなテーマの一つだと思う。引継ぎや年中児発達参観等、幼児期と小学校の繋がりを意識した指導を今まで行ってきた。</p> <p>一般論としては、市外では大変困っていることも多く、一般学級に入</p>

	<p>っていたが、通級指導教室へ行き、それから小学校から中学校に就学する際に支援学校に行くという方も増えている実態だと思う。</p>
今井委員	<p>年中児発達参観はどなたが参加しているのか。</p>
小林課長	<p>保育士や心理士、保健師等の専門職が子どもたちの遊びや運動等の活動を保護者と一緒に参観している。</p> <p>保護者の方も事前にアンケートを書いていただき、そういったものを全部参考にして何か特性があるのか、何か支援が必要なのかということ活動を通して見ていく。このような取組を平成26年度から11年行っている。最初は否定的な方もいらっしやったが、10年以上続けてきたので、最近では理解していただいていると思う。国でも5歳児健診を打ち出してきたというところである。</p>
中野会長	<p>任意でよかったか。</p>
小林課長	<p>強制的に参加ということではなく、すでに医療を受診されている家庭等で参加しないという方もいられる。</p>
中野会長	<p>参観を見ながら、その子の行動についてどのように考えたかを丁寧にくみとっていく取組かと思う。そういった上で、幼児期に得意だったことを小学校で生かしていくというのが、先ほど言っていた実務者会議での取組である。</p>
諏訪委員	<p>子どもが通う小学校でスタートモデルカリキュラムを行っている。朝の仲良しタイムでは、保育園で行ってきたような廃材遊び等を行い、それをクラスのサークルタイムで紹介している。それを楽しみに小学校に通っており、良い活動だと思っている。</p> <p>ユニバーサルデザインの取組については、視覚支援等という視点で言葉がまだわからない、ひらがなが読めない子どもたちにも有効だと思う。小学校に入ってからでも文字だけでなく、絵があるだけで対応できるのかと感じた。</p> <p>幼保小の交流については以前1年生の担任をしていたときには負担感を感じていた。早い段階で参観に来るということは大切なことではあるが、子どもたちがまだ慣れていない中でたくさんの方が参観に来て大勢が並ぶ環境も、子どもたちにとっては大変な部分もある。</p> <p>保育園の先生方の色水遊びや虫探し等がすごいと感じており、小学校の生活で繋げていけると良いと考えている。幼保小連携は小学校の先生が主体に授業を組まないといけない感じがあるが、前半は保育園の先生</p>

	<p>がメインで後半は小学校の1年生の先生がメインとする等するとお互いに良いと思う。</p>
小林課長	<p>貴重な実践の取組に感謝申し上げたい。</p> <p>小学校の先生、保育園等の先生方の負担にならないように、子どもたちの姿を共有し、実践や引継ぎなどの活動ができるようにするにはどのようなことができるのか考えていきたい。</p>
梶山委員	<p>特別な配慮が必要な子どもへの支援について、支援が必要であることを受け入れやすくするには、どのようにするとよいか。早い段階で健診等で映像を保護者に見てもらうことで保護者も気付き、必要な配慮をすることで、大きくなったときに困り感が少なくなると思えるような映像を作って出してはいかがか。</p>
中野会長	<p>政府が最近簡単な紹介動画を出しているが、教員向けや一般向けである。保護者向け等、段々と認知が広がってきているため、整備が進んでいくと思う。</p>
吉田委員	<p>市外から来たため、保育園や小学校への入園、入学の際に、どのような施設で先生方がどのような方がいるのかが分からない状況で親も緊張しながら入園、入学をした。親に対しても施設訪問のようなものがあると良いと思う。</p>
梶山委員	<p>裏館小学校では実施している。入学前の子どもたちが小学校に行って、その年に入学する子たちで自己紹介をしたり、ゲームをしたりしている。</p>
諏訪委員	<p>大崎学園も学校に行く子ども同士の交流がある。</p>
中野会長	<p>小学校の2年生が学校に呼んで交流をすることはあるかもしれないが、学校全体ではあまりないかもしれない。言われてみると、就学前の健康診断や説明会等で最初に交流会があって、それから説明会という流れのところが多いかと思う。</p>
安達委員	<p>子どもが三条市内だったが、年長のときに小学校に行って交流をしたという話は聞いていた。</p>
小林委員	<p>幼児施設の所在地の小学校とで交流をしている。幼保小の実務者会議で学園単位で交流内容を話し合っているというのが現状である。学校によって取組が様々である。</p>

中野会長	展覧会や運動会に行くことが良いと思うがいかがか。
安達委員	皆さんの意見を聞いて色々と勉強させてもらった。最後に1点、小学校のPTA会長をされており、学区で年に2度程小学校のイベントをしているが、地元の保育園児等なかなか周知できず、集客が集まらない。今期も秋、年明けにイベントを計画しているが、どのように園児を取り込むか今苦労しているところである。
中野会長	また、保育所、幼稚園も地域のものであり、子育て支援センター等の地域の子育て家庭に対する支援の大きなミッションになってきていると思うので、地域との関係はさらに考えていかなければいけないと思う。
小林課長	なかなか集客に繋がらないということであれば、保育所を通して保護者にお知らせすることもできる。
安達委員	保育所には直接1回イベントの案内をしている。上のお子さんが小学校の子だとしてくることもある。
	6 その他
中野会長	事務局からその他として何かあれば願いたい。
小林課長	本日は、様々な御意見をいただき感謝申し上げたい。子どもたちにとって何が大切なのか、今回の御意見を参考にし、今年度の事業を実施していきたい。次回は来年、同時期に開催させていただく予定である。時期が来たら会議の開催について、御案内をさせていただく。
中野会長	本日予定していた内容は全て終了する。 以上で、第1回三条市幼児教育推進会議を閉会する。
	7 閉会 午後3時30分閉会